



父から教わったこと一継ぐということ

（株）平凡社 代表取締役社長 下中 美都氏

卓話者紹介

八木 壮一会員

東京生れ、慶応大学仏文科ご卒業。その後、文化学園文化出版局に入社、料理書、「ミセス」、「ハイファッション」で生活文化・美術・デザイン系の編集を担当されました。95年には平凡社に入社。「コロナブックス」創刊編集長、岩合光昭「ニッポンの犬」、「幸田文しつけ帖」シリーズ、「スタンダードブックス」編集も担当しました。2014年、平凡社100周年を期に6代目社長に就任されました。

父・下中邦彦は出版業界外では無名ですが、戦後日本の出版文化のベースを作った出版人の中の一人です。

「平凡社」の創業者下中弥三郎の七人兄弟の末っ子ですが、長兄が交通事故で亡くなり、慶応の応用化学の学生だった父は急遽入社、「一家庭一百科！」を宣伝文句に各家庭の応接間を飾った「国民百科事典」で成功し、夢だったグラフィックマガジン「太陽」と、アジアの古典叢書「東洋文庫」を創刊しました。理系文系を超えた普遍的文化的センスで、文化・芸術・地理・歴史・民俗・写真・科学のユニークな本の森を創りました。

父は少なく読み、深く考える人で、食事中でも思い立つとすぐに百科事典を引いて、物事の来歴やつながりを面白がっていました。百科事典は創業の礎石ですが、インターネットの情報とは異なり、物事の歴史的背景がわかる、そもそもどうだったのかを知る知恵の玉手箱です。50音順にアトランダムに項目が並んでいるので、隣の項目までついつい読んで目から鱗が落ちる楽しさがあります。四代目社長を担った兄は百科事典を「あ」から読んだ歩く百科事典でした。

代々会社の経営がよかった時期は長くなく、常に山あり谷ありです。家族的な会社でしたが経営が厳しくなると、父は労働組合の標的にされ、浴びるほどお酒を飲みました。創業百年を期に三年前六代目社長を担った私も、父の気持ちが少しわかるようになりました。

けれど父はグチも言い訳も一切言わない人でした。ひとの悪口や噂話、又聞き話は「言わぬが花」で格が下がる。自分で感じて、自分の頭で考えて、自分の言葉で語れ。人にどう思われるかではなく、相手の立場に立ち自分がどう考えているかを伝えよと、無言で身をもって教えた気骨の人でした。

家ではヨレヨレの浴衣でしたが、スーツ、カフス、ネクタイ、帽子、ステッキが調うと意気揚々と出かけ、角を曲がるときに必ず振り返って、母と私に颯爽と手を振りました。「本屋にならなければダンサーか、料理人になっていた」という父はお客も料理も大好きで、興が乗れば私のピアノで踊り出す。ある晩、家でパーティをし

ていたら、銀座から帰宅した父が踊りながら入ってきて、友達たちにも踊れと言うのです。皆もじもじ困っていて、意を決した男子が立ち上がって踊ると、「心が入っていない！」と言い放ったのです。

父は還暦で社長を退いてからは、限られたお財布なりに大森や池上に畳屋の店を作って、悠々自適に暮らしました。けれど往年の深酒が祟り、古稀で食道ガンを患い入退院の日々に。食べることが何より好きな父には、ほんとうに気の毒な七年間でした。最期の朝のこと、兄から急変の電話をもらった時、私は重い会見仕事があり、駆けつけたのは臨終の十三分過ぎ。「間に合わなかったか」と無念さに胸がつぶれて、耳元で「ありがとう」とだけいったとき、額はまだ温かでした。

そのとき、父がカッと目を開けたのです。驚いて覗き込むと灰色に黒の点々が散った目で、そのまま四十五秒ほどして、スッと瞼を閉じました。のちに最後まで生き残るのは聴覚だと聞き、そうか、父は渾身の力を振り絞って、間に合わせてくれたのだと思っています。

「お別れの会」までの短い間に「下中邦彦 1925—2002」というブックレットを作りました。撮り貯めた写真を並べ、バーでコースターの裏に書いた即興俳句を選び原稿を書いた数日は、悲しみの中にも真空のような時間で、私にとっては編集者冥利に尽きるひとときでした。まず出版人としての父の年譜をまとめる。データをもとに社の先輩たちに取材をして物語を作っていく作業です。これは後に百年史を編集し、社長になったとき大変役に立ちました。なぜなら、作った本の歴史こそが会社の歴史であり、歴史はあるものではなく、人に伝えるために誰かが作るものだとすることを体験したからです。

その作業が「継ぐ」ことのはじまりでした。時代時代の希求に答えて作った本たちの出版の意図とつながりを外の人に伝える言葉にする。社業を通じて、本は自分の頭で考える道具として最上のものであることもわかってきました。けれど在るだけでは伝わらず、読むのに時間もかかるものです。その本ならではの価値を、ほしい読者に伝えるには、常に新鮮な言葉と工夫が必要です。

本は心の入れ物、知恵の入れ物です。知恵は人類の宝です。本よりよいものはこの世にない。この時代にあってこう表明して回ることにしています。

閉会点鐘

奥山 聡副会長

出席報告

松島 健会員

会員数	36名	ゲスト	5名
出席数	20名	ビジター	2名
欠席数	16名	12/6 修正	70.97%

創立/1993年10月13日(平成5年)
 事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2
 グラントマジン九段 906号
 Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400
 E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
<http://tokyo-orc.jp/>

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
 例会場 ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111
 会長 牛島 聡 幹事 青木 隆幸
 会報 山下 秀一(委員長) 山田 丈夫(副委員長)
 土居岩生 木宮雅徳 小林大介 永井一史(委員)